

Sankka

讃歌
冬号

京都九条病院 Communication Book

◎特集①

京都九条病院

「血液透析センター」の
現状について。

◎特集②

「シヨートステイマム」は、
どんな方にも安心してご利用いただける
病院併設型短期入所生活介護施設です。

◎特別寄稿

◎学会旅行記

ポロニーヤ大学の客員教授に招かれて

◎院内レポート

先進医療。「日本高次脳機能障害学会・受賞」。「京都市長より表彰」

◎院内活動のご紹介!!

◎院内散策①

フットサル ○「第8回院内コンサート」

◎「ミニゲーシヨン」広場

知っててよかった「お薬豆知識」講座(第15講目)

暮らしの中で病氣予防「健康ライフ」講座(第21講目)

ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ(第25弾)

私の病院自慢あれこれ(第25回)

◎院内散策②

第6回京都九条病院

病診・病病連携セミナー



院長 山本垂水



糖尿病内科 江端一彦

vol.25
2012 Winter
冬号



kazuhiko Ebata

京都九条病院

「血液透析センター」の

現状について。

江端 一彦

京都九条病院 糖尿病内科 日本透析医学会 専門医

「血液透析センター」は京都九条病院内への移転によって、より利用していただきやすくなりました。

新しくなった「血液透析センター」について、前号から2回にわたってご紹介しています。

今回は、京都九条病院糖尿病内科・血液透析の江端一彦医師にお話を伺いました。

他部署との連携により、幅広い視点からケアを行っています。

当センターは人工透析が必要な方に安心して治療を受けていただき、その人らしい生活が送れるよう質の高いケアを提供しています。また、センターを病院内に設けることにより他部署との連携をスムーズにし、幅広い視点からのケアを行うほか、急変時における迅速、的確な対応ができる体制を整えていることも大きな特徴です。

血液透析療法とは、腎臓機能が衰えてしまったときに人工的に腎臓の機能を代替する療法です。そもそも腎臓というのは、尿の生成、老廃物の排出にとどまらず、免疫や内分泌、代謝など幅広い働きをしており、その働きを通して体内の血液循環、血液の浄化、水分量やその成分の調整を行っています。とても重要な働きをしている臓器ですから、腎臓が悪くなるということは全身が悪くなることに繋がります。つまり腎臓病イコール全身病であり、腎臓病の患者さんの場合、腎臓を診るだけでは十分ではありません。ですから、透析治療を行う場合も、患者さんは何らかの合併症を抱えているということ

を前提に、それぞれの分野の専門家に検査処置をしてもらい、総合的に患者さんを診る必要があるのです。さらに、透析治療が始まる前から他の病気の診察や検査を並行して行い、患者さんの状態を常に把握しておく必要があります。

しかし1回に4時間もかかる透析に週3回も通っている患者さんにとつて、それに加えて他の病院に治療や検査を受けに行かなければならないとなると、肉体的に大きな負担になります。ここであれば、透析患者さんはさまざまな合併症を抱えておられることもあって、症状が急変する場合もあります。もともと血液透析をすると体内の水分が減少し、血圧が低下する傾向があり、当センターでも透析中に患者さんの血圧が下がり、狭心痛や不整脈が出て透析を続行するかどうかの判断が難しい状態になったことが時にあります。しかし、すぐに心血管センターのドクターに

ば、透析とコンビで検査や治療を受けられるので、いぶん負担が軽減されますし、検査によっては透析日や開始時間を変更しなければ行えない種類のものもあるので、そうした場合もすぐ調整ができます。薬にしても、他の病気との兼ね合いで調整が難しいのですが、ここでは各科のドクターや薬剤部と情報を共有し合って適切に調整できます。病院との連携が緊密で、協力して治療に当たることができる当センターの環境は、こうしたさまざまな面で患者さんにとつてメリットが大きいと言えます。

緊急の場合も
すぐ診察・治療を行えるので安心です。

診てもらおうことができ、必要な薬物の開始や、心臓カテーテル検査の早期の実施により、その後の透析がきわめて安定してできるようになったことが度々あります。また透析を施行するには、十分な血流が必要ですが「シャント」と呼ばれる動静脈吻合をした血管の状態が良くないと透析が施行できないことがあります。この点に対しても早期に不良の徴候を発見し、必要

早期に不良の徴候を発見し、必要

OUR HOSPITAL CONCEPT

京都九条病院の基本理念

良質な医療を安定的に提供します。
さらに常に最大限最高の医療の提供を目指す
前向きな姿勢を持ち続けます。

OUR HOSPITAL POLICY

京都九条病院の基本方針

- 1 医療は患者さまとご家族と医療者が協同して行うものと考えます。
- 2 「奉仕の精神」を持ち、親切的な対応、サービスの向上を心がけます。
- 3 公平・公正で良質な地域医療を、安定的に提供し続けます。
- 4 急性期医療に24時間対応し、専門性の高い高度医療を充実させます。
- 5 治療に関する情報はすべて患者さまに開示し、分かり易く説明します。
- 6 最先端の予防医学・健診技術を用い、「地域の人々の健康」に貢献します。
- 7 地域支援の中核として活動し、トータルヘルスケアを進めます。
- 8 各種研修指定施設として、高い技能を持つ人材を育成します。

な対処が当院で可能であり、以前に比べ内シヤントの再作製が必要になることは随分減りました。何かあった時には即、専門のドクターに連絡ができて、すぐに診察を受けられる、臨機応変に対応できるという体制が、当センターの安全性に繋がっています。

また、当センターは11床と小規模で、いつも同じスタッフが対応しているため、スタッフと患者さんの距離が近く、普段の状態に比べて顔色が優れないとか、いつもより辛そうだったといった患者さんのちょっとした体調の変化を感じ取ることができます。スタッフのきめ細やかな気配りも、安全性をより高いものにしていきます。

設備が清潔で、きちんと管理されていることは言うまでもありません。



せん。当センターの患者さんの状態を分析した結果、比較的栄養状態がよく、全国平均に比べて炎症や感染を起こしている人が少ないという結果が出ました。これは透析の水の清浄度が高く、炎症や感染

を起こさない体制が整っていることを証明しています。そうした面でも、

私は血液透析の専門医であると同時に、糖尿病の専門医です。糖尿病専門のドクターはたくさんおられますが、私のように糖尿病、糖尿病に付随する腎臓病、血液透析までトータルに治療を行っているドクターは少数。つまり、糖尿病の初期段階から、病気が進行して合併症を起こし、透析治療を受けなければならぬ状態になるまで、その移行過程を全部把握している専門医ということになります。ですから、糖尿病に付随する腎臓病で血液透析を受ける患者さんに対しては、

糖尿病、糖尿病に付随する腎臓病、血液透析治療までトータルに治療しています。

安心して利用していただけるのではないのでしょうか。

腎臓病だけを診るのではなく、糖尿病の専門医という観点から総合的に病状を診て、合併症を抑える治療をしています。

血液透析治療を受けられる方のうち、40パーセントは糖尿病が進行して糖尿病腎症になった患者さんです。糖尿病の専門医として、なるべく血液透析を受けなくてもいいように進行を止め、回復させるという思いで治療に当たっていますが、残念ながら自己管理がうまくできなくて進行してしまう方も少なくありません。糖尿病の治療には栄養管理が大切です。管理栄養士さんの指導は大変重要です。また、新しい薬が開発されてきて以前よりは血糖値のコントロールがしやすくなってきましたが、反面、非常に多数の薬があるので、どれとどれを組み合わせるか、腎臓の機能が悪い人であれば、薬の所為で腎機能が悪化することもあり、腎臓により負担の少ない薬を処方するなど注意しなければなりませんし、

調合には薬剤師さんの協力が必要です。さらに、いよいよインシュリン注射が必要な段階になれば、看護師さんに安全な注射の打ち方を指導してもらわなくてはなりません。糖尿病の治療にはこのようにコメディカルが果たす役割が大きいです。他の科と連携しつつ管理栄養、看護、薬剤部など各部署の協力を得てチーム医療を進め、低血糖や腎臓機能の低下を起こさないような治療をしていきたいと考えています。

透析治療では、スタッフの専門技術をアップし、最新の知見に基づいてバリエーションを広げていくつもりです。また、患者さんが緊張すると血圧が不安定になるので、もつとりラックスしていただけるような快適な環境づくりを進めていきたいと思っています。

治療は月曜から土曜まで、午前8時10分から、午後は2時から、1日2回行っています。
お気軽にお問い合わせください。
■お問い合わせは京都九条病院まで 075-691-7121



「ショートステイママ」は、 どんな方にも安心して ご利用いただける病院併設型 短期入所生活介護施設です。



ショートステイ ママ 係長
相談員 理学療法士 森木江美

ショートステイ ママ 係長
管理者 鈴井尚文

ショートステイ ママ 係長
看護師 中川美奈子

医療的な対応が
必要な方にも
安心してご利用頂けます。

鈴井 私たちは、平成12年に介護保険制度が制定されて以来、さまざまな介護保険サービス事業を行ってきました。そして、こうした事業を通して在宅介護の利用者さま、介護を担っておられるご家族の方々と接していくなかで、介護者が病気になる時や急な用事で介護ができなくなった時に、安心して利用できる施設がほしいと願っていただけることを知り、短期入所生活介護事業を立ち上げることを決意。昨年3月に京都九条病院併設「ショートステイママ」を始めました。

中川 「ショートステイママ」のメリ



ットは、何と言っても医療的な対応・処置が必要な方にも安心してご利用いただける点です。現在のスタッフ体制は介護職11名、看護師3名、事務3名、相談員1名、栄養士1名ですが、山木院長が毎日、顔を出されるので、利用者さまの病状について相談したり、直接診てもらったりしています。また、突発的な体調不良などの急変時も併設の京都九条病院と日頃から連携を密にとっているため、迅速に対応しています。もちろん、全科のドクターもしっかりサポートしてくれています。

森木 在宅介護の方では、介護者が入院された時や冠婚葬祭、旅行などで不在となるため利用される場合が多いのですが、なかには入院されていた方がご自宅に戻られるまでの移行準備期間に利用される方も増えてきています。急性期病院の場合状態が安定したら退院となるケースが多く、在宅の環境を整えたりする必要があった

りと、またご自宅に帰るのが難しい。そういう場合の「継ぎ」の施設として利用されています。もちろん緊急に利用される場合にも対応しています。

鈴井 大部屋のショートステイも多いのですが、ここはすべて個室。プライバシーが守られるうえ、認知症で他の方と個室で過ごすことが難しい方もいつでも受け入れることができます。さらに4階と5階にフロアが分かれており、認知症で医療処置が必要な方とそれ以外の方をフロア別に分けて入所していただいているので、どんな症状の方でも気兼ねなく過ごしていただけます。

なかには感情の起伏が激しい方や帰宅願望の強い方、強い不安感をお持ちの方などいろいろありますが、介護の経験を積んできた専門のスタッフが一人おひとりに寄り添った介護を行っていますので、その意味でも安心してお任せいただけると思います。

透析やリハビリなど、
入所中にさまざまな
サービスを提供しています。

鈴井 ご利用者の方それぞれのニーズをよく伺い、一人おひとりに



合わせたサービスを提供していることも特徴の一つです。入所の期間中、血液透析センターを併設しているので、透析が必要な方は透析を受けていただくことができますし、リハビリが必要な方には、個別で適切なリハビリを受けていただけるのです。

森木 ここでは生活リハビリにも力を注いでいます。在宅の時には寝たきりで、車椅子に座るのが訪問リハビリのときだけという方もおられます。そういう方にも、日中はできるだけフロアに出ただけ、またお食事のときにも負担のない姿勢で召し上がってもらおうようにしています。そうすると起きる時間が増えて、在宅のときより良いリズムで過ごせるようになります。さらに運動機能を維持するために、毎日、「遊べり」という形で、風船バレーやサッカーなどを動かしたり、塗り絵や折り紙での作品づくりなどをしたりする時間も設けてとても

「患者の権利」に関する宣言

京都九条病院では、患者さまの個人としての尊厳が守られ、より良い信頼関係の深まりとともに安心して医療が受けられるように、患者さまの権利に関する宣言を掲げます。

- 1 患者さまは、その社会的経済的地位・国籍・人種・宗教・年齢・性別・病気の種類によって差別されることなく、平等な治療を受ける権利を持っています。
- 2 患者さまは、自由に医療機関を選ぶ権利を持っています。
- 3 患者さまは、十分な説明を受けた上で、治療を受ける権利あるいは治療を受けることを拒否する権利を持っています。
- 4 患者さまは、医療のどの段階においても別の医師の意見を求める権利を持っています。
- 5 患者さまは、医師ならびに医療従事者が患者さまについて知り得たすべての医療上の情報及び個人的情報が保護される権利を持っています。
- 6 患者さまは、いかなる状態にあってもその人格を尊厳され、また尊厳をもってその人生を全うする権利を持っています。

私達京都九条病院職員は、患者さまの権利を尊厳し、十分な相互理解をもって、患者さまが最善の治療を受けられるよう最大限努力をします。私達京都九条病院職員は、良質な医療を提供し続けるために、常に前向きに努力することを誓います。

楽しんで頂いています。参加できない方も傍で見たいだけでもいいのですが、それがよい刺激になるように、表情が明るくなるような変化も見られるようになってきました。

中川 自分でできることは無理のない範囲で行っていただくようにしており、そうした生活リハビリの効果も現れ始めています。なかには、ここを利用する前にはトイレ介助の時に足がしっかり立たなかつたのに、帰って来たらしっかり立てるようになっていたという方もおられました。「家での介護が楽になりました」という感謝の言葉をいただきました。また、体位を変えるのもご家族の方にとっては負担が大きいので、夜中はずっと同じ体位のままの方もおられますが、ここでは何度か



体位を変えますので褥瘡も改善するんですよ。

これからも、「ショートステイ マム」に入所したら体の機能が回復した、体調が良くなったと言っていたように、工夫していきたいと思っています。

鈴井 当施設では、全個室にトイレ、テレビを備えており、アメニティの面でも充実しています。手すりも、右片麻痺や左片麻痺などいろいろな障害に合わせて部屋ごとに変えてあるので、それぞれの障害に合う部屋に入っていただけるようになっていきます。また、ゆっくり入浴が楽しめるというのも当施設の大きな魅力ではないでしょうか。体を清潔に保ち、皮膚病などを予防するという点でも入浴は重要ですが、家では訪問サービスが難しいという方もおられます。ここでは横になったまま

楽しく寛いで過ごしていただくことをモットーにしています。

や、座ったまま利用できる最新式の特設浴槽(2種類)から、ゆったりとした個室浴室までさまざま。な種類の浴槽を備えているので、どんな方にも寛いでお湯につかっていただけます。そのうえ部屋からの眺めもいいんですよ。大きな窓は開放感たっぷり、京都の町が一望。ケア付きホテルの感覚でご夫婦一緒に利用される方もおられるんですよ。

森木 入所先を選ぶ上で食事は重要な要素の一つですが、この食事は京都九条病院の厨房で作っているため、お一人おひとりの病状に合わせた療養食が提供できます。嚥下食の種類も増えていますし、嚥下障害がある方でもご相談いただければ適切に対応いたします。

中川 私たちの願いは、利用者さまにとって「ショートステイ マム」が「何度か来たくなる楽しい施設」になることです。定期的にイベントなどを催しているのもそのための工夫。クリスマス会ときには、何ヶ月も前からスタッフが実験を重ねて炊飯器で簡単に作れるチーズケーキを考案し、材料を交ぜる、炊飯器のスイッチを入れる、切り分けるなど、麻痺のある方なども含めて全員が参加してケーキづくりの



過程を楽しみました。一緒に食べて歌を歌って、クリスマスカードも手作りして、記念の写真を撮って、賑やかに盛り上がったんですよ。

こうしたイベントなどでの交流を通して参加された方同士が仲良くなり、互いに期間を合わせて入所されるといったケースも出てきました。これからも、もっと魅力的な企画を考え、レクリエーションを充実するとともに、ご利用者さまだけでなくご家族の方とのコミュニケーションを密にして、どんなサービスを求めておられるのかを的確に把握し、ご家族の満足度もアップするように努めていく所存です。

※当施設では京都市全域、長岡京市など広い範囲で送迎対応を行っています。送迎サービスについてはお気軽にご相談ください。

お問い合わせは
ショートステイ マム
TEL 075-69117667

学会旅行記

介護老人保健施設 マムクオーレ 施設長 尾内 善四郎

第九回冠状動脈疾患国際学会

今回のイタリア行きは、久しぶりの海外旅行となりました。実はどうしても早く発表したい課題が見つかったからです。

川崎病は1967年に東京日赤医療センターの川崎富作先生が初めて見つけた子供の病気ですが、時には死亡する病気であることが、次第に明らかになりつつあった頃のことです。たまたま外来診察でその男の子を診たことが、まだ若かった私にとって事の始まりでした。

不幸にもその子は亡くなってしまいました。病理解剖をさせてもらったところ、予想もしなかった心臓の様子に言葉が失いました。心臓を包む心嚢が血液で充満していました。心臓壁の外側に分布している冠状動脈が瘤状に膨れた場所で見られました。

その後、他の動脈にも瘤のできることが分かってきましたが、それは極稀であります。何故、冠状動

脈にでき易いのか疑問に思い続けていましたが、その2年後に或る仮説を思いつきました。

冠状動脈の血管壁に酸素や栄養を供給する小血管(栄養血管)が他の血管の栄養血管とは異なっており、大変ユニークな分布をしていることを、英国人のクラークが既に1966年に記載していました。私は、この特異的な分布が瘤を作りやすい原因ではないかと考えました。

この仮説は私自身他の関心事に気をとられて放置し、また誰からも注目されずにきました。しかし或る研究会の演題を聞いて、将に私の仮説を支持する有力な証拠となることに気づき、同様の発表がないか調べたところ、期待通りの結果を得ました。さらに別の角度から検討したところも、之の仮説を支持しました。

それを当年中に発表したい(すなわち平成24年4月にはマムクオ



朝、向かいの島への渡し舟乗船橋から撮ったゴンドラ。



満潮ではサンマルコ広場は水浸し。常備している仮説歩道が広げられる。



学会前日に準備中の口演会場。数日前から冷え込んだとのこと、あわててダウンを買いました。

ーレのサテライトであるマムクオーレIIを含む、複合介護施設マムスクエアが京都九条病院の北西に開設するために多忙となる」ということで、ベネチアで開催される国際学会に提出しました。学会は総演題数750題、内、口演200題、参加人数は1000人でした。学

会前夜の歓迎レセプションから最終日の私の口演まで丸々4日間、本島と会場ホテルのある向かいの島まで船で通い、午後は自由時間となり狭い本島の迷路のような街の中を橋伝いに歩いたり、水上バスに乗って運河伝いに回りました。

ルネッサンスの代表都市、ベネチア・フィレンツェ

ベネチアは十字軍の頃には東方に広大な植民地を有し、14世紀にはヨーロッパ第一の海上勢力を築き、さらに内陸にも領土を広げてイタリア屈指の強国となった歴史をもっています。

部長に進呈しました。これら2都市は芸術・文化が花開いたルネッサンスの代表的都市であり、世界から多くの旅行者を集めてきましたが、中世で時計が止まり恰も街自体が博物館といった感想を持ちました。歴史遺産が豊富なのは京都と類似していますが、違う点にも気付きました。

また往路に2日間、フィレンツェに寄り道しました。11世紀に都市国家として独立したフィレンツェは15世紀から18世紀にかけてメディチ家の支配下になりましたが、16世紀には大公国となり、一時はイタリア王国の首都でありました。フィレンツェでは、東京の病理学者から頼まれていたミケランジェロのダビデ像の写真を撮り、また世界で一番古くから営業を続けている薬局を見学し、その写真やレシ

ピを京都九条病院の友沢薬剤部

を京都九条病院の友沢薬剤部

を京都九条病院の友沢薬剤部

寄稿
CONTRIBUTION
Italy

ボローニャ大学の客員教授に招かれて

整形外科主任部長 楠崎 克之

私は京都九条病院に勤務しながら京都府立医科大学の細胞生理学教室でがん細胞の基礎研究と新しいがん治療法の開発をしています。今回はその研究の関係で平成23年11月12日から12月10日までの1ヶ月間イタリアのボローニャ(Bologna)大学の客員教授として短期の留学をさせていただきました。

ボローニャはミラノの南、フィレンツェの北に位置する内陸の都市です。日本人にはなじみの薄いところかも知れませんが、ボローニャ大学は11世紀に創設された世界で最も古い総合大学として知られており、卒業生には神曲のダンテ、科学者のコペルニクス、ガリレオ・ガリレイなど歴史の教科書に出てくるような人物がたくさんいます。サッカーでは中田選手がボローニャのチームに所属していたことがありますし、現在の日本代表監督サッペローニさんの故郷も近くにありまます。

ボローニャは昔は城壁に囲まれ多数の塔が立ち並ぶ都市国家のひとつでした。パチカンの直轄地であ

たことから、たくさんの大きな教会があるほか、いまま当時の城壁や建物が数多く残り、中世の優雅な景観をとどめています。その代表がポルティコと呼ばれるアーケード。ルネサンスやバロックなどさまざまな様式のポルティコが町中に張り巡らされ、その至る所でフレスコ画を見ることが出来ます。ボローニャは食べるものが美味しいことでも有名で、イタリアでポロネーゼと言えば美食家のことを意味するといわれています。トッテローニという隣の形をしたパスタやモツァレラというソーセージをはじめ、バルミジヤーナチーズ、生ハムのプロシユートなど美味しいイタリアンが目白押しです。もちろんワインも最高です。

私が研究に招かれたのはボローニャ大学の医学部のリッゾリー(Rizzoli)整形外科研究所(日本の整形外科教室にあたります)で、ボローニャ市内の南の風光明媚な丘陵にあります。この生理病理学研究室の教授であるNicola Baldini先生とは1988年にハーバード大学

の中心にあるマッジョレ広場。

特別
SPECIAL COM
from



街の中心にあるマッジョレ広場。



ボローニャ大学での講義。左はBaldini教授。



フィレンツェ大学での講演。左は炭水化物分解酵素の開発で世界的に有名なCaudu Supuran教授。

のマサチューセッツ総合病院の整形外科教室で一緒に研究した仲です。

1990年に日本に帰国するときに、先に帰国していた彼がイタリアから私を招待してくれてボローニャに1ヶ月滞在したことがあります。招待の目的はボストンで私が使っていたニコンの特殊な蛍光顕微鏡(私の恩師である京都府立医科大学の故芦原司教授が開発したもの)を彼も購入したのでそのセッティングと研究指導のためでした。あれから約22年、今回、客員教授としてボローニャ大学に招聘されることとなったのは、近年、そのBaldini教授が、私が京都府立医科大学の生理学教室で行っているがん研究に大変興味を持ち、彼の研究室の研究テーマを私の研究内容にシフトし始めたことが理由です。そして、ちょうど私が彼の研究室に着任したとき、そのテーマで応募したイタリア癌学会の研究費が認められたというビッグニュースが入り、がぜん私の研究が注目を集めることとなったのです。急速に各研究員の研究テーマを決めて研究プロジェクトチームを作り、さらに近隣の施設との共同研究を開始するための説明会を開催することになりました。講演先は、フィ

レンツェ大学の薬理学教室、ピサにあるロボット工学研究所、国立がん研究所、トリノ大学の獣医学科など多種多様な機関に及び、そこへ移動するだけでも大変なのに講演の後に質疑応答が行われるので毎回へとへとになりましたが、幸いなことに各研究員が始めた研究からはこれほどの短期間にもかかわらず私の予想通りのきわめて興味深い結果が出てきました。私が長年かかってもできなかった研究がここに来てほんの数週間できてしまったのです。まだまだ論文発表までおおよその筋道は立てることができました。とてもハードでしたがエキサイティングな時間が過ぎて久々に研究に浸った日々でした。

最後にこのような貴重な体験ができる機会を与えてくださった松井理事長、山木院長、松井副院長、そして少ない人数で私の外来や入院患者を支えてくださった整形外科の大槻先生、渡邊先生、四本先生に心から感謝申し上げます。

内視鏡的大腸粘膜下層剥離術(大腸ESD)のお知らせ

先進医療

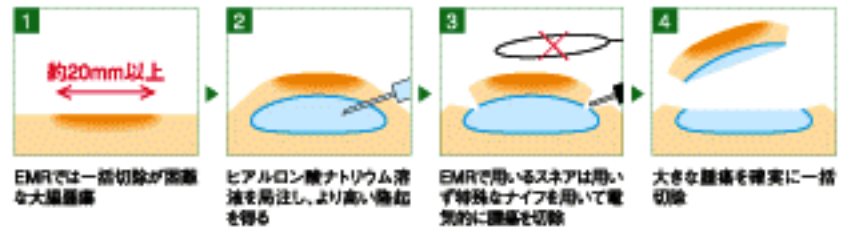
京都九条病院は、厚生労働省(近畿厚生局)より平成23年12月1日付けで、先進医療である内視鏡的大腸粘膜下層剥離術を施行可能な医療機関として承認されました。

◎先進医療とは

先進医療制度は保険適用外の新規治療技術に対し、保険診療との併用を認めることで、患者様の自己負担額を軽減するための制度です。一定の技術的・施設的な要件を満たした医療機関からの申請に基づき、厚生労働省が認可を行います。大腸ESDの先進医療の制度は、国民の安全性を確保し、国民の選択肢を拡げ、利便性を向上するという観点から、平成21年7月に保険診療との併用が認められたものです。

◎内視鏡的大腸粘膜下層剥離術(以下大腸ESD)とは

内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)は近年開発された内視鏡治療法であり、従来は外科手術が必要であった大型の病変や内視鏡切除が困難な病変に対し、専用の電気メスを用いて少しずつ病変を剥離していくことで、高率に病変を一括に切除することができ、高い根治が望める新しい内視鏡治療です。ESDによる内視鏡治療は2006年4月に早期胃癌を対象に、また、2008年4月には早期食道癌を対象に保険適用となりました。しかし、大腸ESDを施行するためには、大腸壁が薄いことなど解剖学的な理由により手技的に繊細な操作や高度な技術を要求されること、胃等のESDと比べ腸管穿孔の危険性が高いことから、いまだ保険収載されていません。その中平成21年7月厚生労働省により大腸腫瘍に対するESDが先進医療として承認されました。



◎大腸ESDのメリット

大腸ESDでは、従来の内視鏡切除法では治療困難で、手術により治療されていた病変の内視鏡治療が高率に可能となります。大腸ESDでは入院期間は6日程度ですが、外科手術では約2週間の入院が必要になります。大腸ESDと外科手術の比較では、大腸ESDでは患者様の肉体的・精神的負担の軽減、入院期間の大幅な短縮、医療費の軽減などのメリットがあります。

◎大腸ESDにかかる費用について

大腸ESDは保険適用がなく、先進医療になるため、「大腸ESDにかかる費用」は患者さんの自己負担となります。自己負担額は病院によって異なりますが、当院での具体的な費用は、私費(実費)で146,000円となります。

大腸ESD以外の治療・検査費および入院費用などについては、保険診療が適用されます。なお、医療保険には、「先進医療に対する給付」を行っているものがありますので、保険会社に御確認ください。

(文責 消化器内科 奥田孝太郎)

山木院長が京都市の救急体制の充実発展に貢献したことにより、京都市長から表彰を受けました

山木垂水院長は、京都市の進める救急業務の高度化に深い理解を示し、救急救命士の養成をはじめ救急体制の充実発展に貢献したことが評価され、京都市長から表彰されました。授与式は平成24年1月10日に京都市役所で行われ、門川大作市長より表彰状が手渡されました。この表彰は、京都九条病院の救急医療への取り組みに対する評価であると受け止め、さらに地域の救急医療の充実を図ってまいります。



リハビリテーション部 日本高次脳機能障害学会でポスター優秀賞を受賞

平成23年11月12日、鹿児島で開催された第35回日本高次脳機能障害学会学術総会において、リハビリテーション部言語聴覚士の門由起子さんが行ったポスター発表「高次脳機能障害患者が自宅退院を困難にする要因」が、独創性と新発見、美観に優れているとしてポスター優秀賞を受賞しました。これは、当院に入院

され、自宅退院または転院となった脳血管疾患患者507名のデータを解析し、高次脳機能障害の方の、どの項目の改善度の違いで自宅退院が可能になっているかを分析したものです。受賞を喜ぶとともに、この貴重な発表が今後の専門的な研究に生かされ、高次脳機能障害患者が出来るだけ自宅退院できるようになることが期待されます。私たちは、リハビリテーションを提供する中で、こうした研究に見られるように、どのような効果をもたらしたのか、またさらにどのような点にアプローチすべきだったのかを常に探求し、技術の向上に努めています。



院内活動のご紹介!! （フットサル）

京都私立病院協会会長杯争奪 第6回病院対抗フットサル大会



■11月23日決勝リーグ



■11月3日予選リーグ

京都九条病院フットサルチーム

のA、B2チームが、京都私立病院協会会長杯争奪第6回病院対抗フットサル大会に出場しました。

昨年11月3日に行われた予選大会には総勢57チームが参加。Bチームは惜しくも予選で敗退してしまつたものの、Aチームは見事、次の決勝大会に駒を進め、応援に駆けつけてくださった山木院長も大喜びでした。

11月23日の決勝大会では30チームによるトーナメント形式で試合が行われました。松井理事長をはじめたくさんの方々の熱い応援を受けて選手は奮闘、押し気味に試合を進めたものの、結果は0対0で引き分けに。残念ながらPK戦で敗れ、次のステージに進むことができませんでした。

京都九条病院フットサルチームができたのは7年ほど前で現在の部員は約15名。月1回の練習は、普段会う機会の少ない部署の方々とのコミュニケーションの場にもなっています。これまでの最高成績は第1回大会の3位。もちろん次の大会ではそれ以上の成績、いえない優勝を狙いたいとみんな意気込んでいますので、ぜひ次回の大会をご期待ください。

院内散策

さんさんさん

⑬

『第8回院内コンサート』

主催 京都九条病院



平成23年12月18日(日)、第8回京都九条病院 院内コンサート
を二階外来待合フロアにて開催しました。出演して下さったのは、

熟年オーケストラ「アンサンブル・クローパー」の皆さんと、ホルン奏者の山木院長です。入院患者

さんをはじめご家族の方や地域の方などたくさんの方が来場してくださり、ステキな歌のクリスマスを楽しみました。

演奏されたのは「ホワイトクリスマス」「きよしこの夜」などクリスマスに因む歌に加え、「津軽海峡冬景色」「北の宿から」といった



演歌、「雪」「たき火」などの唱歌と、いずれも皆さんよくご存知の冬の歌15曲。最初は静かに聞き入っておられた方々も、山木院長とアンサンブル・クローパーの指揮者高田逸夫さんの軽妙なおしゃべりで会場の雰囲気緩和が和んでくると、口ずさんだりリズムを取ったり。最後のプログラム「お正月」では全員が元気な声で合唱し、フロアいっぱい笑顔が溢れました。

京都九条病院ではこれからも楽しい院内コンサートを開いていく予定です。どうぞご期待ください。

MEDICINE
for **HEALTH**

知ってよかった「お薬豆知識」講座⑤

講師：京都九条病院 薬剤部主任 薬剤師

國永 智昭

Tomoaki Kuninaga

安全にお薬を服用して頂くために、副作用の一例をご紹介します。



今回は、「薬剤性腎障害」という副作用についてお話しします。みなさんが、この副作用の初期症状を知って、早期発見が可能となり、安全に薬を服用していただけることを目的にしています。

量が少なくなり(乏尿)、ほとんど出なくなったり(無尿)、逆に二時的に増えることもあります(多尿)。さらに、尿量が減ることで、体内に余分な水分がたまり、足がむくんだり、体がだるく感じたりする(倦怠感)といった症状も出てきます。

もちろん、このような副作用は、まれなもので、かならず起こるとは限りません。あくまで、気づかずそのままにしていると、症状が重くなり健康に悪影響を及ぼす場合があります。重要なのは、これを機に、患者さん自身が、「薬剤性腎障害」の初期症状を理解し、早期に発見することです。それを手助けするのが我々薬剤師の大事な仕事だと考えています。

まず、「薬剤性腎障害」とは、名前のとおり、お薬が原因で腎臓の機能が妨げられることをいいます。腎臓の一番大きな役割は、体内の老廃物や余分なナトリウム、塩素、カリウムといったものを水とともに尿として体の外に排泄することです。しかし、薬剤性腎障害により、そうした腎臓の働きが弱くなると、老廃物が血液中にたまり、血液検査でクレアチニンやBUN(尿素窒素)などが高い値を示す高窒素血症という状態になります。症状が重い場合には、人工透析が必要となることもあります。また、普段より、尿

量が少なくなり、「二時的に」といって尿が出ない、「むくみ」、「倦怠感」などの症状があらわれた場合には、放置せずに、速やかに医師、薬剤師に相談してください。

薬の副作用のことで心配な点がありましたら、遠慮なく、お気軽に薬剤師にご相談ください。



NURSING
for **HEALTH**

暮らしの中で病気予防「健康ライフ」講座④

京都九条病院

看護部2F病棟

正しくマスクをつけて効果的にウイルス対策をしましょう!



今年もインフルエンザが猛威をふるっています。最近では、「ウイルス対策」として予防のためにマスクを着用する人が増えています。しかし着用法によっては、逆にウイルスを取り込む結果になることをご存知ですか?

- ① 1回使用とする。
- ② 必ず顔にフィット
- ③ 装着する際には、裏表を

あまりお勧めはできません。次に、薬局などで取り扱っている使い捨てマスクは



薬局だけでなく、スーパーやコンビニでも様々なデザインのマスクが置かれています。ウイルス対策として、どのようなものを、どのように着用するのが効果的なのかをご紹介します。



昔からあるガーゼマスクは洗濯して繰り返し使用することは避け、長期使用はかえって細菌が繁殖しやすいので

- ④ 鼻の部分に針金が入っているものは、鼻の形・顔の形に合わせて曲げることで

まだまだ寒い日が続きます。マスクひとつとっても、いろいろと注意することでウイルス対策が効果的に行えます。うがい・手洗いと合わせて引き続き心掛けていきましょう。





子どもと一緒に淀川マラソンに参加。もちろん完走しました。

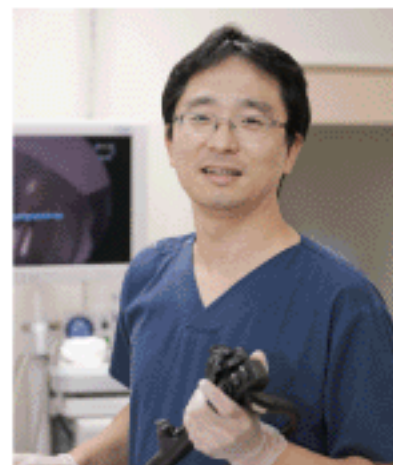
得意な英語と、
趣味のジョギングで、
とても充実した時間を
過ごしています。

FACE
of DOCTOR

ドクターの「プライベート拝見」数珠つなぎ◎

京都九条病院 消化器内科

中山 雅臣先生
Masaomi Nakayama



昨年の4月から消化器内科で勤務しています。内視鏡検査や治療が専門ですが、消化器に限らず内科全般の治療にも当たっています。

私は子どもが生まれてから医学部に入り直したという経歴の持ち主。予備校で英語の教師をしていたとき、教え子たちがどんどん医学部に受かり、医者になる姿を見て触発され、自分も医者を目指したのです。

そんな経歴から英語が得意だろうと、外国人の患者さんが来られると、スタッフが私の方につれて来られるようになりました。お陰で、受診料に関係なく外国人の患者さんは皆さん、私の担当なんです。診察した外国人の方とは治療が終わってからも交流が続いていて、感謝の気持ち

を表したいとレストランに招待していただいたこともありました。今では英語が活かせて、やりがいを感じています。

趣味はジョギング。学生時代には淀川マラソンや和歌山のジャズマラソンなど毎年、国内のマラソン大会に出場していました。私のモットーは最後まで走り抜くこと。ですから途中棄権は一度もありません。順位に関わらず、ゴールしたときの達成感は何ものにも代え難いほど魅力がありますね。いずれは12歳と6歳と3歳の子どもたちと一緒に親子で国外のレースに挑戦したいと思っています。

LOVE
my HOSPITAL

私の病院自慢あれこれ◎

病院のいいところが好き!!
京都九条病院のいいところ。
こんなところがわたしたちの自慢です。

好きな言葉 favorite word
「思いやり」

佐藤 永梨

事務部 医事課 ゲストリレーション



ゲストレーションがあることが自慢です。初めて病院に来られた方は誰でも不安でしょうし、お出迎えして案内するという係がいれば安心されるのではないのでしょうか。入社したのが昨年の5月、感謝の言葉をいただいたり、顔を覚えて声をかけてくださる患者さんも増えてきました。何よりいろんな訪問者の方々と接するのが楽しくやりがいを感じています。モットーは優しく丁寧に対応すること。ご高齢の方であればゆっくり分かりやすい言葉遣いで話すように心がけています。

好きな言葉 favorite word
「縁」

鈴木 貴尚

看護部 5階病棟 保健師



保健師の専門性を認めてくれる点が有り難いですね。保健所や学校などで働く保健師はご存知の方も多いと思いますが、病院で保健師として力を発揮できる場所は少ないんです。介護の仕事に携わっていたとき、もっと包括的に高齢者の在宅での暮らしや病気予防に関わりたいとこの道に。いまはまだ看護業務が中心ですが、保健師としての視点をもって、入院される前から退院後の暮らしまで考えたケアを心がけていきたいと思っています。

好きな言葉 favorite word
「助け合い」

国友 優希

リハビリテーション課 作業療法士



各部署との連携が密で、風通しがよく、チームアプローチがしやすい病院です。主治医、看護師、社会福祉士等と一緒にカンファレンスもあり、入社2年目の私ですが、発言しやすく患者さんのことを一緒に考えることが出来ます。仕事で心がけているのは患者さんとのコミュニケーション。リハビリの際は1対1で接しますので、どのように今、病気やけがと向き合っておられるのか、リハビリを行い何がしたいのか、お一人おひとりの思いを受け取るように努めています。

好きな言葉 favorite word
「ゆとり」

桑名 綾子

栄養課 管理栄養士



早く食べられるようになって早く退院できるようにしてもらいたいという病院の考え方が素晴らしい。「食べる」ことは生きることの活力源ですが、患者さんの中には食べることが難しい方もおられます。ここでは、まず食べていただくことを基本に、お一人おひとりの状態、好みに合わせて食事を作る工夫しているんですよ。昨年の8月に入社したばかりで、まだ先輩方について勉強中ですが、これからは人間関係をもっと深め、メディカルの一員として管理栄養士を担える栄養士になるのが理想です。



院内散策 さんさんく

18

『第6回京都九条病院 病診・病病連携セミナー』

主催 京都九条病院

平成23年11月19日(土)、京都東急ホテルにて、「第6回京都九条病院 病診・病病連携セミナー」を開催致しました。これは、地域医療サービスのさらなる充実を目的として、当院と地域の病院・診療所との連携、また当院内のスタッフ間の連携を促進するために毎年行っているものです。

当日は、同仁会の職員に加え、来賓をはじめ地域の医療関係者、介護スタッフの方々など多くの皆さんにご来場いただき、これからの地域ならびに病院間の連携を深めていくうえでたいへん有意義な機会となりました。

まず、山木院長が開催挨拶を行い、リニューアルされた京都九条病院について、患者さんにとってより便利に、職員にとってもよい環境になったこと、またショートステイ マム(短期入所生活介護事業所)ができたことが在宅介護を担っているご家族の負担軽減に繋がっていることなどを述べました。

第1部では、京都九条病院臨床工学課の岸本博明課長が京都

九条病院血液透析センターについて、アメニティ、透析機器、スタッフ体制、提供サービス内容などを紹介。また、血液透析センターが京都九条

病院内にあることにより、各科のドクターとの連携が緊密で、すぐ協力を得られ、透析治療中に患者さんの体調に変化があった時にも適切、迅速に対応できるという当センターならではのメリットについて説明しました。

さらに、透析を担当している京都九条病院糖尿病内科江端二彦医師が当血液透析センターの現状について解説し、個々の患者さんの病状や透析状況、合併症の方の透析による影響、透析によってどのように状態が改善したかなどの詳しい分析結果や、透析によつて体調が悪くなった方を京都九条病院との連携によつて迅速、適切に対応した事例などを報告しました。

次に、平成23年3月に京都九条病院に併設開所したショート



ステイ マムについて、相談員 森木江美係長が利用現状を報告しました。

あと、第2部では、京都九条病院消化器内科の奥田孝太郎医師が「消化器内視鏡の最新治療」と題し、京都九条病院内視鏡センターが果たしている役割を説明するとともに、最近導入された内視鏡検査・治療について、胃がんや大腸がんの実際の手術の様子をスライドで示しながら講演を行いました。

京都九条病院では、今後もこうしたセミナーを開催していくとともに、あらゆる機会を通して、地域の病院・診療所との連携を強め、地域の方々が安心して暮らしていけるようサポート態勢を充実していきたいと考えています。



医療法人同仁会(社団)
京都九条病院
〒601-8453 京都市南区唐橋城門町10
TEL 075-691-7121・FAX 075-691-5311
www.dojinkai.com/

医療法人同仁会(社団)
ショートステイ マム
〒601-8453 京都市南区唐橋城門町10
TEL 075-691-7687・FAX 075-691-7671
www.dojinkai.com/

医療法人同仁会(社団)
同仁会クリニック
〒601-8453 京都市南区唐橋城門町30
TEL 075-691-7768・FAX 075-693-6175
www.do-clinic.com/

医療法人同仁会(社団) 同仁会クリニック(併設)
同仁会疾病予防研究所
〒601-8453 京都市南区唐橋城門町30
TEL 075-691-5070・FAX 075-693-6135
www.do-clinic.com/yoko/

医療法人同仁会(社団)
介護老人保健施設 マム フローラ
〒617-0853 京都府長岡京市島海印寺島ノ院25-2
TEL 075-958-3388・FAX 075-951-6300 www.dojinkai.com/mam_f

医療法人同仁会(社団) 京都九条病院
訪問看護ステーション・マム
〒601-8454 京都市南区唐橋城門町16
TEL 075-661-3820・FAX 075-661-3835 www.dojinkai.com/mam_s/

京都市唐橋地域包括支援センター
京都市唐橋地域包括支援センター介護予防支援事業所
〒601-8453 京都市南区唐橋城門町10
TEL 075-692-3368・FAX 075-692-3348 www.dojinkai.com/mam_s/

医療法人同仁会(社団)
介護老人保健施設 マム クオーレ
〒601-8326 京都市南区吉祥院南番町40-3
TEL 075-691-7755・FAX 075-691-7765 www.dojinkai.com/mam_c/

医療法人同仁会(社団)
居宅介護支援マムステーション
〒601-8453 京都市南区唐橋城門町10
TEL 075-691-7200・FAX 075-691-7116 www.dojinkai.com/mam_s/

京都九条病院(提携)・同仁会クリニック(併設)
メディカルフィットネスクラブ SHIN-SHIN
〒601-8453 京都市南区唐橋城門町30
TEL 0120-558-756・FAX 075-672-1414 www.e-shinshin.com/